



特別
~12
1077
30





利
1077
29



行幸

三十六歲

太政大臣

西對娘若幸

十二月大原野行幸

西對娘若見物

以養人在此門尉為御使雉一校自

門裡缺太政大臣

次日源氏若後西對物語

作日

行幸見物

廿七歲 同

三條大宮自去年冬病恹事

二月一日源氏後三條大宮事

玉鬘若夏申大宮給事

大宮以御文被招清內大臣殿事

四大臣系三條宮事

着布袴事

源氏若對西事

治玉鬘若事清事

十六日玉鬘若清裳着事

自三條宮被猷櫛若夏

中宮被猷裳唐衣清髮上具事

常陸文被送裝事

內大臣治腰治夏

近江若桑女清殿中內侍上取事

中事

內大臣殿系女清被召上近江

若事

後(先)
黄(加)

行幸ミヤコ

河巻名

以新巻名トス

豊並

花井秘集曰

うらききしし朝々りせし山は

ふらふたえれえやみし玉鬘

私日返新モリ又親しは大原野

乃ミヤコ行幸と何や

源武六次ノ十二月廿七ノ二月廿七

の幸し初巻し武六次ノ幸し

行幸ハ大原野行幸し

此流し天子れと行幸と上院の成

武

秘

御幸といひつるまじしゆゑに
け巻の石ハ大原野乃行幸之
私け巻の巻ノ教ありといふも初子ハ
源ホ之ヲ 三月 胡蝶ハ同 三月 螢ハ
四月 常葉同 六月 篝火同 七月 野分
同 八月 行幸同 十月 大原野行幸ノ
リ翌年源ホ之ヲ 二月 末ノ事
也 可之ヲ乃九月十月十一月ホ之ヲ
け巻ノ初ニ公ニホ之ヲ

玄洞の時よのふおけしうごい
とよーうとよん洞と見んかめはみ
叶へり箋曰お青公おけしり
川あお青いりまも公けしり在は海
或 昇 所流よりくおかーいごうぬ事なく
とハむろくといもーるり縁ふも
つげくゆのおぬまといまろん
のふあ乃公青を法流もおしゆま
ハ世の中のおとーりりかしてふよる

らむと云ん

みれこれ人の西とーりいよ
小蝶共ーい源とむろとー西事と
くーかーとおぬと海とみは公さ
海成尺とあり流つまーしんちん
或 流：堂の夫よはあど人つー
こい西子ありくひれとーいりー

さやうよの宿ひーとさうあるせて
源のくれりよとあり

私始ノ美音

かのおおし

秘 内右氏ノ美

何よりよつきてしきハキワくー

美 内右氏ノ侍長也ノキワヲテ人
そ執常ノ妻ノ共ニモ尺ノあり

ゆておのひポまあしけりやくれぬ

美 弁云内右氏ノ玉ううれ事ヲ知
テ又源氏ノ密通ヲありてけ
さやう人モおこし海ノカレト
なり

秘云内右氏武うう事ヲ知始テ
又源の密通リ顕ハナキもや
内右氏ノ西方へやうしヨウハ家内
あしおこし海ノううト
花云致仕おしハ何よりしき

さかたに乱りカハシキ事と堪ひまよし
致仕大臣ノ御心にあれらるるるるるる
ニ事おたれいりてあしすトノ事ハと
こゝろへいふといふとこゝろに玉鬘方
と云ふ事とく暮い柳の事ハ御心と云
等曰くこれおこくと云ヨリは二條の内を
にノ事ハとさしておひくまれく
けさやるるるの事とあしすは源
氏宗通ノ事モアラス玉ウけしと

内大臣へしうせ申サシ時其かきまらん
てしきなりし事とあしすは内大臣ノ性
物とにきワリノ事と人たしは御心ハ
取しツカス思コナモナリとく
りてあしすハとこゝろに御心ありま
キト之様ノ心を源氏ノ御心御心け
さやるるるの事とあしすは御心あり
そ時ハ御心ひくると云御心ハ
又内大臣ノ事ハ二見ハ御心ありま

さしと云河竹川奏てニモおひきまれ
此世しとらうくは時ハとらひるまに心
之曲のうりし然時ハ源氏ノ事たんこ
ニハ内大臣ノ事と云ニ多うひて曲し
らまやゆあうまひのうらハいそとまれ
れニまよ 心美

こゝれうま
それと云はよ大原郷のりきあり
三年年のたし

案

河云仁和二年十二月十四日戊午寅
四刻行幸芹河野為用雁鳥鶴
李部王記延長六年十二月五日
大原野行幸卯初上御輿
花云野行幸八仁徳天皇濟宇ヨリ
始二几

仁徳天皇始 仁明天皇永和三一二
光孝仁和二芹河醍醐昌泰元行
野 延喜四 大井川 延長四 野 同六 大

原野 以ホ之中以白河院永保元 大
井川

十二月ノ例ハ仁和二十二十四 芹河野
幸行年中納言子世のふるる後
可りりわの時と

秘
今ノ初幸ハ延長六年十二月廿日大
原野行幸以例ノ摸く李部王
記大略一同ニ己上等
仁徳ヨリ始ル遊覧ニ水入農業シ

十二月ノ例ハ仁和ノ川用ヒテ長
六年ノ例ヲ他用上見タリ

柳卷ニ沙宮母トヒテ今ノ如ク又
親王侍中事皆仁和ノ例ニ大長
大長無儀奉リテハ延長ノ例ニ坐秘
儀ニノセキナリ

花鳥季託云自才在門至五季大路西
折到桂河邊上所輿ハ就握群臣下
馬上所輿六群臣乘馬渡浮橋万舟

其上句果安板自路入野口 已上等

キムハ女ニキムル人ニキムル礼

等 同記云雁鳥飼親王公御之本列其往衣
才御衣及ノ袍親王公御及殿上
侍長六位以上著麴塵袍諸衛官人
著褐衣服及行騰諸衛服上義府
主九 掌以上著服及行騰悉熊皮及唯
腹卷四位五位用虎皮六位以下
阿多良悉及鹿兒皮通用 言及方用

以上武官者小平馬寮内舍人
同諸衛鷹飼親王公卿者地摺布
衣及袴武用掌本蘭文所袴小襖子
飼袋大鷹着豹及腹卷乃到野口
着狼皮行騰四位以下同大井河
行幸

ひまそひ

河馬副兼

予をくら

兼人^秘了勢いころ人くこ

又少一のり別見取有人

左右大尺内大臣

兼兼曰三云納言兼議都合亦一騎

け介親王了儿こり幸し時関白

八系車こり後陣被依位野行

幸し時足例あす

青父のうゝのきぬえひをあれ下まきと
殿上人女位六位すてこころ

等

あ代父ハ麴塵ニ一日晴ニハ必久志ス
ル今ノ六位龍人拵舊ノ者スル
袍是之をうゝの時至上ニハオウ父
ヲ著清しあふし 秘

河云一日晴後ニ諸片者麴塵袍野
行幸時左方鷄飼者白椽地又
摺衣右方鷄飼者青白椽地又摺
衣ニ申競持記ニ見タリ

花云李部王祀延長六年大原野
行幸ニテ装束中御ハ赤父袍親王
公卿殿上侍片六位以上者麴塵
袍今案ニ上ハ赤父ノ袍ヲ著
治子介親王公卿以下ハ皆青父

一 朝服ノ祀ト龍衣ハ蒲萄深クを
初ヨリワタメ人ノ出立リイヘリ義和
三年大井川行幸ニモカリツアリ
三

并
狩場ノ例あり

雪ノこいさうら地あり

河云延喜二年 裏去ニハ四年十月十九日

十月又有芥河行幸大後云山口
へ入き給一祀よきしきし

一 山鷹乃成とりきし山鷹ハの鳳
れうハよ飛まひりてかていしやう
く口ハ山のく入きふえぬし
りしして山乃お祭神とりきし
屋しよ鷹れまハいしゆく紐紺書
のやうよねうらひろけくわぬし
祀を実れ者乃きしこしらわぬし
ありしやきりしやハいしよき
あしじりしや回し給しハつてえぬり

かりとて仇らきりしとまひり
とくは記よ書れはあしゆり
我くまひの上美

みられきりき

乃とらうの我も事う海りあ
——ま時成さるやう——

又こころらん多らうれと驚かすひ
括つらハあつ——きかりれはまひと
そとまらうけはあ

秘

驚かす人ハ皆衣裳と野よて改
じふしあ妙に見たり美

美

美曰こころニテハいふく者用を
衣裳ノ又う成云ノ野よおつ
ふて志用と知く

親王公卿 驚か銅車

河云李記云宗興抄行出日花門自
右近陣於朱雀門丈丈門就釣人
洗朝臣伴衛物長朝頼羽民在大

将前鸞人茂春秋成武仲源教在
公卿前鸞人陽成院一親王按察大
納言鶴人中勢以彈正尹陽成院三
親王在公御前

鸞銅裝束事

弁云白く布れ袴衣よまろ摺丸く
指貫ノウハこむくくく腰あて十ト

人儿也

李部王託鸞銅親王公卿若地摺
布衣及袴 或本蘭又綺袴 小襖コアヲ子
餅袋

し、紫是ハ五卿ノ鸞銅ノ装束布
袴衣ノ摺ノ文アルリキル袴モ同シ
ノ或ハ紫才蘭地ノ絹ノ指貫ツ
モキル也見ヘタリ襖子ハトニ重
子タルニあノ事一ニ餅袋ツク

何
伊勢物流
仁初のみて芥川
よりまゝ一活けり
付今ハさうあるふ
まろくせひ丸れ
こもくしきまあ
ふまけんまろこ
のそくひまろく

さあさあ
けりてり
きぬれ
よかき
中ゆきり
おきれ
あし
衣
しん
な

一冠ハ巻纓ノ冠ヲ奉ルヘシ仁和
川ノ行幸ニ行幸中御言ノ大鷹
飼ノ摺衣ニ鶴ノ文ニ縫在モ云
ノ鷹飼ノ事

河之仁和二年芥河行幸日公卿
皆着摺衣在帝

旧託云正位下藤原羽衣国平嘉
摺衣立列直獵野

鷹事

河之仁徳天皇四十二年秋九月庚

子朔依細土倉河河 玉云土倉安之右

捕奇鳥献於天王曰臣每張細捕鳥

未曾得是鳥之類故奇献天皇是

酒君示鳥是何鳥矣酒君對言此

鳥之類多在百濟得別而能從人

死之掠諸多百濟俗号此鳥曰俱

知今時鷹之乃授酒君令養馴未

幾時而得別酒君則以章諸著

其是以小鈴着其尾居腕上秋天皇是
日幸百舌鳥野而遊獵時雌雉多死乃
放生令捕忽獲數十雉乞月南宮
耳部故時人号其養之礼曰鸞耳邑
之日本紀上卷

うゑのたゝひ
一本このたゝひのたゝひに云々 因うゑも養之
一本このたゝひのたゝひトアリ 松日

諸衛鷹飼

今日王鷹司 正人掌詞習鸞

大事 卷

松云諸衛之六府ノ云皆下りりき
ぬん左右ニ分テ赤又青又アハシ

卷曰諸衛ハくろくろり袴袋赤と
見へしより

卷云諸衛トハ六衛府ノとひつ下ラ
云へし

世りあふれぬ下り衣みれはは
くろくろり袴袋赤と見へしより

其のよりのきりきりきりきり

より衣ハ袴衣のよりハ伊勢地袴ハ奇
詞よりきりきりきりきりしてより
よりきりきりきりきりきりきり
衣とありきりきりきりきり

等

わりの紫のより衣のよりのよりの
あり

云昌泰元年十月片野行幸た
方鶴銅著赤白掾地又摺衣右

方鶴銅著青白掾地又摺衣西宮
抄云鷹銅地摺衣袴玉帯鶴
銅青白掾袍袴玉帯巻纓有下
龍衣著鈕者有鹿靴王御衣銅入野
（後著行騰餉袋兼保三年大
井川行幸鶴銅友人鷹銅笠雲若
也巻纓色ハ袴衣袴唐錦接腰鞆
餉袋之ハ鷹銅隨身四人錦帽子
袴衣袴腋纏餉袋之ハ以上各具

大餅著帽子

今案諸清考銅裝束先例御不
同之又云云云銅と其考銅との
得衣も不同之昌泰ノ記赤白椽
ト云ハあり又ノ事之黃櫨ト葛ト
摺タル得衣之青白椽トハ其考ノ
之莉安ト紫トニテ摺タル得衣之袴ハ
きぬの指貫玉帯卷綬ノ冠鈕ハ鹿
朝アリ以外唐錦接腰鞆トハ兼保

ノ記ニ見ヘテ李花云自挂路入野口
考銅王公到此持考負外考銅
袷惟武家著青摺衣者四人摺衣
者徒門而扈從之又諸清考銅
親王公卿摺布衣 見上

西宮抄云卿如例衛府著考解考
地摺得衣袴玉帯鶴銅
川下同見古

武王卿以下考銅著供奉裝束扈

從車輿云四位以下云爲例者愕子
臂云令幸大列立安 福殿春
興云殿常又云御心下 諸儀乃云
何云裝束隨遠近相留云例入
野云後解大緒大云例者浩懸腰
鷓云爲浩腰座守云例又同云

めづり〜く〜きハロー

出づ

^義 旅人万人のろ〜れ物身人

リ云

あ〜ハ車

私之存何〜よ〜車トアリ

^義 何云掃ノ弱キ車云

〜〜〜

○

新幸ノ道ノ橋ノ何ノ一ノ宿
人トテ拾水遠使ノ有矣凡幸ノ秘
幸記ニ乘馬後浮橋ニ見上
少レ多ハ乃ハ女若也

○

みまこれあり又のいゝとてまゐりて

河内ノ門ヨリ外ニハ必成トナサレ
立テラフヘキ事モナキトシ

○

河云延長四年十月十九日大井川

西
延長四年十月
十九日今上
幸陸皇リ幸
大井川二月
六日幸北野
延長四年八
北野リ幸

行幸上服赤色袍黄櫃深赤袍文
竹鳳臨時祭庭座賭弓射場始或又
朝親行幸後出沛木時被用晴
候ニ諸片青色ノ袍ヲ着スル時
ハ主上赤色袍ヲ着セシメ給
事一序ノ人又着シ是諸片ニ異ナ
凡又月宴野行幸以下時幸ノ系
多略云々

幸記云卯初上沛輿其装束沛赤

又祀

花云延長六年に主上赤色ヲウケ
上ニ返セリ

延長四年十月六井川行幸ニモ昌
泰元年片野行幸ニモ赤色ヲ著
佛アリシニ諸臣ハ必ス青久ノ袍ヲ
着スル事ニ他方一ノ公卿ハ主上
ト同シク赤色ヲ着ル事アリ

白河院養保ノ大井河行幸ニ京極
殿用白ニテ赤色ノ袍唐錦袴ヲ着
シ船舟外ニ宴ニハ法性寺園白赤
色ヲ著シ行幸ニ御民共々
幸リ行々赤袴着々ハ云々

うつりくりにんあき

何云人主ノ躰如山岳乎高峻而
不動

なりしひきこる海をいんあ

^等 西奥ノ内ヨリ外ニ八月より外ニモナ
キ

わらわお

^秘 内右内之け又おとモ此門ヨリ外ニ

^等 日ウウルヘキモナト

内右内とあつたはし随ふノ

量トハ見ユシ共海門ノ日ウ

ニハ人ノケウサシタル

人ふすく礼の家

^何 多々人 凡俗日本記

此うたらり不

^秘 此う

^等 花云昌泰元年野村幸ノ時車中

し如半膽天顔或出半身或志

露面云

まうてうらあ

^等 其外ノ若殿上人ハ海ニてなり

燭のこりれふとせ 秘

沖舟のふくれの

美

美田村ノ将居る翁ヲ尋メ在

ニ分テお行スル

いふ人よ

何とも目ふくぬと云

いふくひあくおりにすなりわ

秘

平生いその人なりと云然らば

名ありんくのみかいていふ人

くわしとし 如エトイへんカ如し

美

上ノ詞こころありやあし

わさこころみられくわり

いと中ねく 平生い其人

人ト者ヨキ名ア人トモ出さ

じタレ也 如エト云カ如し

さしにみひさくし つら

思花ノ人 これ

く いふ

トセ

源氏のおしこれかきふハ

美 美曰主上に似流一歌しこれれ下

ノケキノ各別ニ人し流ト

さばくばくこひ

美 美 正上れゆりこ

あてわり人のこれ

何 貴人 美

美 美 玉うつ了れ公平生源氏夕霧下

ノ目人お上流平人れさ人の流ウ

やうふコリトあてノ世り公ふく思

多うちこきよの晴こ柳りこれ世こ人

ナキカこしく正上へケリサシ名上 美

兵部卿の御用

秘 靈し

美

親王供奉例

在奥河海 美右モリ

右乃乃乃乃乃

秘

領里

回

玉ろろろろろろろろろろろ

ろろろろ

ろろろろろろろろろろろ

ろろろろろろろろろろ

何 明巖

美

大納言ノ右乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

右乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

と貞しししししししししししししししし

花云西文抄云公卿如例衛府云卿

若乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

ト乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

清府乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

幼しノちねハルニ依テ藤ヲ負約ル
也云昌泰元年片野行幸在大
将菅原朝臣佐季治也

又ハ河ノくをきくらしよみて

美

河莊子曰文王者若寡人等見良人
黒色而頓踈云文王元又季子歷生
存一日黒色多鬚也

いそぐハ女ノ泣くらひて云

美

事云けきり一々をふくくテ
ねりわすしト

舞黒大ね大細し成余よりめく

若年ノ假粧ハ似カタカラント云ハ

秘云ちねハ年々くゆすて假粧スル

せけちねハ舞カチテ故ニ假粧ナト

似合ニキトシカクれワキイヘルハ只

今もあつよ心アケ流すノ切な夜

せ

うらなひをらす

むろりの心よ舞臺とてうらなひ

見ゆし一途なり事とてあり

おしれ君乃にほし一なりて

筆 せうろれ心 筆秘同 深見乃む

ろくと口約ノカミ事とて路合

事とて事なり路一なり

文は之いふよりあつて

九 大なるれまつてハ本意よりあつて

とて人むろりの心

あまし一しきすらハりてらるれ

秘 せうろれ心よやつて人の事ハ心

くそとていさうハ心あつてらる

ハ心とていさうハ心あつてらる

筆 せうろれ心よまはる人の事ハ心

くそとて聊カ心何なりとてさう

らとて一しきいさうハ心あつてらる

ワラハヤノ水心ノいてミタレノ是併子
の水気又リノ人種有在へし又ハ舞臺
リル多クハ此ノ如クナリ

カクキ野ノヨオリノマキノツミトシテ水ノ
コトアリトモセリ此ノヒツツリ

李託云從獵卒行獵至所連墳
進朝膳親王公卿若平張府放墳
頂眺らるる石中物ヤ右權中
乃實頼物ヤナ中正近持小金宮

鈕上降墳路右兵衛依仲連水前
折理秀人下ニ維殿上六位昇翅
具内厨子不膳所臺二臺花人時
望物長陪膳侍從以衛賜王公饌侍
從手長益送

河
平張

水ノリククモ水ノリクク此ノ水ノ
ナリトアリクモ水ノリクク

弁
水ノリクク

秘

一説直衣ミ

一説直衣ミ

等

一説直衣ミ

一説直衣ミ

花云西之抄云天皇服白櫛御衣延長

永時天皇御右近之湯改着直衣ミ

昌泰元年野行幸御布白櫛唐綾

衣ミ入野ミ後ミ著櫛御衣ミ今案

此ミ入ミ後ミ上ミ此ミ御

直衣ミ後ミ例ミモアリミ又獨衣ミ

サレミモアリミヤミ

等曰花鳥ノ美直衣ノ説ヲ執セラレ

ニヤウヤ世伝ハ野口ニ傳ミトニ上

是ミ平張ミ朽装束ニ改ミ此ミ

此ミナミ上ミ御ミ

此ミカミ御ミ

此ミ御ミ

此ミ御ミ

是ハ先装束ホ此多クいひて
さし入りしとくさあつハセりきま
まうりけりしとてふめ
やうけは二テウルハシリ改メ考スルヤ
法清ノ書角を野にい希白リ格衣
装束トク之ナリ不ニ令混乱者
此さうりくことあつし 虫衣之り此
傳ふりし格衣しめけり
私云弄秘美ホ一同ノ上ハ格のり

因

小あはれとてしと美と用ひて

高野院よりゆみさくを

何

高野院よりゆみさくすし火は
うしとてまうり世話入りトアリ

酒

ゆみさく

炭火壺ゆへ

ハゆさくハ今ゆさくとあつた

葦今ハ執費とてあつた

案

ゆ氏ヨリ一献ヲ申サレシ

秘

花云延長六年ノ例ヲうりせりけ

時六条院八宇多清門中事在之
今ノ御浴ニモ六条院との御
お付物之李記云六条院被負
酒二荷炭二荷火炉一具殿
上六位昇し立湯前而解一瓶
至維潤而完供湯完云御新
近出將監役

李記云延長四年十一月六日有小
野行幸其日余因物忘不参未冠
上還船罷茂春寂後獲
箋曰六条院卜書事一号以方太
以不審之諸抄不及此抄は為

事
秘
弟子記

源の存澤れりし事ありし
美 美曰西門ヨリ供奉するに西門
又ありしカトモ致障し始（ル）ト云訓人
ノ注ニカケル初之秘ニ事子比トアリ
不之然 已上美

源の存澤れりし事ありし

李託云延長四年十一月六日山野行

幸其日余因物忌不参

美 美人の左門きりしと云ふひめて

美 花延長四年山野行幸し時美
左門尉源俊春リリ使ニ于難一
校中ありし世活ありし事倒りて
又美人左門尉リリテ六条院ニ
イラセラレルこと 秘日

秘云け野ヨリ源氏（進）セラレ

一えりし

美

河云九条右並相集ニ朱彦院より
雉一羽落ニ付テ拾フセケルニ

付多枚事

半高七尺五寸 普通ノ拍子リ聲也

ハク園ノ大表裏ニ毛生チク是リ多

付半ト云

一説云たんと業しし子也

冬ハ五枚リ隔テ雄ヲたあけり付

キリさけて付

雌

去ハ雌ヲたあけり付去ハ雌ヲ賣ス
ル也 付種口得る也

又鷹野より人ノ汗一モスニハ

三四尺ノ半ノ枝リノ目ツワケスメ也

ツ折ハシラカメ付し一羽ノ付柳如右

四條大納之隆親ハ託^{ウツ}半六七尺雌

一羽リ付し大尺大狼合し服後徒如也

用

産下之モスニハ振川小松ニ付し 秘事

義氏羽衣説書野らり人の之を維
と送るよ八望うゝ福を萩藩とて
りて何れも付し

又春ハ梅 秋ハ紅葉ニ付常事ニ
右片大編食用し又初雪ノ羽雜久
ニ書入時し作法ニ

一 松鳩ヲ付事 山鳩ニ義家羽衣
好不行し

一 鶴ヲハ萩藩枝ニ付

一 小鳥ヲハ紅葉ノ枝ニ付

一 雀ヲハ竹ニ付十月ハうゝ葉ニ付ト

イ(リ)ハ鳥鋼武文説ニ

以上美心河海ノ美也付録

河 伊勢物語ニ業平羽衣忠仁云云

りろ維九月ハ梅枝ニ付あり

りろこれむきくこめおるたわ
りろしりぬ物なりぬき海

おあせしむるに可しや

表

徳名の御しやうれ美武う海し
年ハ女乃きうぬりあれはらう
ゆしゆらささむらもあうり
にほあうし

秘

書房れ身るれはくさうし

美曰は一向なるよ徳名へ向く不可

然作まへノ心し是ハ清し使ハ能人
忠の耐しとこし一う勅定ノお心
まハいりやうあうアリつんト云美し
まやれやりのしとまよふまうハ
くあし

美曰は一版作まへノ御しとあり勅定
サ一ううりし中リテ清製衣ト書
トムルハ女ノ身ニテ持アんとは能ハ
次ノ清製衣ノリトんルハ美を美

は次之書加たり

^{御製}

雷少くさくさくかしのぶよきよの船乃
物うよはれしときよハハふらよよ

^秘

ありふよはれしハ延壽野行幸より
りし事日

美曰少くさくはれしハ左政右長徳也
ノ先例ある月ノの船へり今日出
仕ナキハ無念ノ會人セ

左政右長れくは野乃のり幸につるは

つり船つらふありさるや河わきん

美云昭宣公ノ例之あげ先遊もあ
まハ事り船へりしとくは也并と訓
尺也ルシ ^{秘ノ義}

花云四方にわたりしは流もきよハ為
りしゆりハ仁和二年ノ昭宣公ノ例
リ思食タルシ思し源氏若南宮左政
右長ノ意

美曰け一版ハ仰名ノ初之由製ノ意

孰くそあらんすんよん九一

右政大臣供奉例

河云克孝天皇仁和二年十二月十日
四日^平寅四冠行幸芥河野^為用
鷹鷄之式了御中康親王常陸大
守貞因親王左政大臣藤原朝臣
^基左大臣源朝臣^融右大臣源朝臣

多

大納言右原朝臣良世中納言源

朝臣能有在原朝臣行幸右原朝臣

山蔭以下參議扈從其行獵之後

一八依承和故事^式考内記式付極者
^{法而行事}

原朝臣定^{宇多}勅召太政大臣三皇子

傳勅定拜舞輿^前帝鈕騎馬皇

子源朝臣正立位下右原時平權若

摺衣平三冠直獵野於淀河邊

供朝膳行宮在泉河鴨河宇治河
會漁人亦獻鯉鮒天子命飲右邊
諸葛朝臣奏奇天子和之群臣奇福
原朝臣起舞未二冠又得放鷄擊手
鵲放隼擊水鳥坂上宿祢獻唐一
太政大臣馬上奏之幸輿還幸在
權佐高涇別墅林供夕儀高涇勅
叙正五位下太政大臣率高涇舞
野行幸清和殿太政大臣贈答之可見

松云河花秘亦一義悉以美涇一

お一の使一と一こゆりて一あ一し一は
秘 彌良一と一あ一し一

長原 美涇氏花人一右邊の射成り一今一地一

と一ゆ一心一み一ゆ一と一つ一れ一ら一松一原一

あ一し一り一る一ゆ一や一し一ん
美云云右邊の射成り今日始々一依
干是万代始々一ト一攝一義一カ一凡一之

秘ノ義一

元

大和やと一のの山松く
うやうやうき子世れきん

日に葉きふらりなり江上大原野
幸ハルより始るまはくし後あり

国史云光孝天皇仁和二年六月九日
幸丹波以山城國し洲郡大原野

為大政天皇と推備し地と已上箋

今案西門の由製のあり江上と大政
左氏の供奉し一の事とあり江

今り源氏の由也奇れきより那

み解しハあハアリ 松江之

と推れしうあひさし一のもの

箋け一紙又作名一廻さやれ

ありの事しうのみよまうハハハ

あんとし方上れ廻成らけたり秘

又乃日やうしれあふ

美り幸の翌日し源ヨリむ

み成をせしるん

きききみ
てあぬら
おろしと
花二八
としり
月多き
但多流
たきり

あけのついでとまうとを結ぶ

秘 源乃みの詞美

かの事ハおろしとまひき

秘 月約のうしよまひのうしよ

あけのついでとまう

是よりおろしとまひのうしよ

うしよとまひのうしよ

まうのうしよ

美源の推帯れ公とまひとまう

れとまひ

あけのついでとまう

秘 あけのついでとまう

美曰とまひとまうとまひのうしよ

とまひとまひとまひとまひとまひ

公あけのついでとまひとまひのうしよ

あけのついでとまひとまひ

あけのついでとまひ

美 まうのうしよのうしよ

うららき〜朝のつや〜
まよふ我〜れひりりや〜

花

くさねらりき〜
みゆきい海雪とけきよ〜
なうよちよ〜
美田はか〜
てみる〜
き〜
日〜

しうと云庭の心〜

し〜

け潤少〜

花

うららき〜
我家のそれ〜

花

川舟同上
の〜
の君れ源氏の也〜
欠の光ハ〜

紫つるれふし西幸一もみたるん

玉文の綱

美

美曰天親も尚侍ノカドモ公ニ是也
とワヤニハヌヨシニとト云河西白
何と有へまのりツト云公ヨモリ

たふとみとまうさうれりし

うもつるよ

美

う(と)ハは(美)

まろくの事と

秘

尚侍のあはれれり成はつて世に

(原のこり) 美

一平并にささのりありては

やうれ事トありたありれぬ

一私トあり家を

中宮くしておす

こちのにおほしふんをふへ

美

中まりも原のゆきやう

ありと又は内ゆのこ

けしきも電リ奪はしほてハ中文の
ゆきしきいしきとし 秘 事

かのおもいにきりせてし

美 さしハ又実又ハちん、是女の事

リありりてまのりほても又弘徽

殿女御ノおがととあめりとし

うよ 人のさぬあき

秘 美さしりよとナアリ

秘 之上ハハ注モ必成さるあまのしきとし

なり

くふおひうくんハ

中文弘キ受るしよとくふあき

くしきあき

あれうしそ

秘 紫上詞 美

かりて文つるおひくし

正上の如のどまらりつりよ女乃交
けくろしよのまし回るるんま
——こ——ん——

いそこみりそめてさこし結らん
^集源ノ祠者ことハ集上リノ結り秘
美曰き——すよのま——ん
ちり結り人より結りめて結り
三ト戯於し 正上集

又序之り

^秘

前ハ源ヨリ弁ハかりよて美れり
——茂也舞乃ニテ也ヨリ志結り
つとサテ又返る有し

^{正原}

あはれさすひりハ弁にり ぬ茂
るるるゆきよめ茂き——ん

美天子リハ日ニタトフルに月リ
すしハ旁わくふんし ^秘

花ニハ月よりト云ん月ノ旁
ちりるる根

何云同さうりナト云々

日云るあひさうし出ろ日りに六

まれのあひさうし

菅家
長久日

美曰何さうす光ト云テ日りに在

夕凡作例をニ然一日晴ノ時

赤又自然ニおぼす奥ア凡ニヤ

れおわしうてうしうんれさうめ

秘

文仕ウさうり終トし美曰

源氏れまうの文仕とす

セ

おしうてと

美

源氏ノ化

中川内裏ぎの事

らさげくろみしうなり紙

^舞のしるありせ

因との如しいさむく内家くまをん
あまれとくくいさ

^秘

私勤け巻くくいさとらきり初之

あまのりいづま柳心ノうりり
んれこくはむけらハりりくく
しるいさむをうりりあくく
らさげくはまそがあはれ
あまのりいづま柳心ノうりり
うり心を柳流くくいさとら
うり心トく

^集

石移岡の流は初之くいさとら

^秘

ノ義ヲ裁く同略し
義曰け原のくくき原ハ造名ノ
大キナルノ土地ノ

くくわてきくわく取とおく

義曰源氏廿七ノ二月也次ノ初大
まこそれわつくくわくわく
年こそくわくわくわくわく

ト讀キテ二月ノ義あり
みろくわく

女ハキこくわく

秘
人の女子ナト云ニ
わくわくわくわく
ワモありはさて有

義曰女トハ玉くくわくわく

うゝれりて後して一ニま一
まを

谷うくし後人福うしぬ

^業玉うくしれ生長ありし人これに
人のひとめとてこりりおす所をとい
はれすも氏津の

^何作勢地鏡者ニ乗れ后まうしとま
のちやとあともりまら時うらみ
ふまうして後けるよ

^業け後ハ只流ゆらんのもうしと氏津
あゝあ流津一モ西ニ夕、子ハ源氏所
子ノふこニ一モと海をいまおりつ
まりしけ内竹のここれ文作し
ハ友氏を源氏トナるゝんハ三三
山ノ神さへモくうり難キト云又つる
よハ人ノ知(き)りしハ計略トシテ
送意ニタレ様ニ世ノりしきしをト
ヤ

二のりおほり

松

尚侍ナトニ成治リ去日大の孫ノ所
心モウケトシ源の子ありく源日
大后ノ子ナラハ友氏ナレキ也
花ノ義同略

と所くぬきまのちれふまて

秘

実又よきせとて源の
とさくあろわしち後まきこ
とあんとし

うささ

美

うささ

何

花とんきおんとすまハ女高也
うささあるはの名とさうのれ
あはくきい人のささう

美 真人まことくわうしとて教あるぬ合あり氏姓
ヲ改あらて時ノ直ただ：延事のほもあまは是これを
心こころとれらるら信好のぶよし：何ノ不足たりノあ
まはトテ事ことトモ有ありトモ
春日ノ神かすかひのかみノ所ところをまひぬきし
ううハ初はつととききくくんんへへ 秘ひくく人ひとと
ううととすすりりすすれれトトしし
お書なこれこれははららりりににぬぬききりりががしし
美 ちちりりよよききぬぬくくはは信のぶ氏の之の事こと成なり也なり

し給たまへ免ゆる角かくニ玉たまををたたしし親おや子こノ向むか
まま矣やリリああるるははささくくんんハハ何なにカカリリ
ぬぬくくしし
笠かさ一ひと張はり美みくく美みくくれれニニ切き瑳そ塚つか磨まりり
私わが女をハハここここととああるるトト云いヨヨリリ一ひと張はりががきき
て美みくく一ひと張はり今いまけけ同どう秘ひああ美みくく
出でかかしし

たれたれくくハハわわかかゆゆくくしし成なり
美 美み日ひ人ひとののいいひひりりととああままれれキキヤヤ

源のこゝかゝ内府へすゝこきせんと
あり定じせ

御秘こゝひひよはうれおとと

男女と振や内ち片へカサレこ

元服ノ加冠ノ如し

等 玉ろゝれ衣者ノ腰比ひよ又

おとと清しサレ也

け物須申明石姫君ハ秋好申冬金

ろゝハ内ち片タルへし男女と振

え服ノ加冠ノ加し劫倒二のこと抄

不見ある

昇 同云男女こゝゆぬ事しや玉ろ

ろゝれ腰比ひよハ内府より明石

姫君ハ秋好申冬ト月人ゆゑ又衣

者ハ年ノ齡不定しや 答云ハ若袴

裳者ハ三歳しそよひねハ不定し

一節

大文こをれをけり

等

三条多し 葵上内大臣ホノ母儀

は煩こ事ヨセテ 料あり

秘

内大臣料あり

死

玉ろくれ けり

れおくと 清し

大文の由まわりのよは 料あり
さしあり 源氏の由女 風んよ
内大臣ハ心ね けり
いさし けり

中お君し

夕方し

心のそ〜あ〜

いふよせりし

秘 源乃心美

文しうせけりし

秘 玉うろくは祖母あまの心美 六ヶ

月の朧し

秘 三條うせけりし

朧とおひまの心美

あつとふか

い

け矣又とありし

若根もあはれし

とてそれとありし

ありし

三條の文よ

秘 源三條文よ

美 三條文よ

源下姨おひし

美の心美

秘

源の源ありふらぬ

——^美

う我しなく

け粧しなく——く儀式の

くおとしく——い心し

はる花うとれ

源乃の源し

あ——くみそてまうり

たまの源氏とる心乃中し

源氏のみちま——

^美 文の源し—— 西白中出振し

ま——うの源し——

^美 けハ振し—— 隅況ふて就

美曰源乃——

ヨリモ別後お——

まは——れ物片乃

秘
夕方し^美

夕暮れ別——してさうなむかしあり
ししく——くもほつ家こりいふは
しおとらふさいつるふおり及つるよ
りもあとしれお後神くたがす
と源のくほよこ

のうしふしとるぬついで

是らり源出行うしれあやとら
らぬさほよこのほよこ
おか念きたつらう人もさく

^美相國ハちとく出はる一取職か

こいをこ

う海けよりあく——くうさひく

^美美曰くはうらり心たれこ

^因のしふぬさほらり

よりひろしこ終らりゆさ家人こりこ

あしこ

^河潜歎曰吾不能為大斗未折腰奉
く事御里小人邪義遊三年解

即去懸乃賦郷序九去来

河 晋書陶潛字淵明彭澤令と解

口一々々令の封才み年

美 美曰河海之淵明彭澤令折腰ノ

歎ノ故事リリハ後ノ心不お付

け洞ノ心ハ四皓とこの者或ハ大公

望こナ老カ、ニリテモ世ニ仕ヘタ

ル事トモツイテリ

あや 一くおま一々々本上モウ

舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

因 因 因 因 因 因 因 因 因 因

美 美 美 美 美 美 美 美 美 美

美 美 美 美 美 美 美 美 美 美

美 美 美 美 美 美 美 美 美 美

美 美 美 美 美 美 美 美 美 美

美 美 美 美 美 美 美 美 美 美

美 美 美 美 美 美 美 美 美 美

美 美 美 美 美 美 美 美 美 美

地々々此心

私疎懶懈点ノ義

これつらなりなるや

秘 大文此初老病のすまれ

あつとありてはふれ

老病あるのころ

死期のころ

ぬ

あつとありてはふれ

てや

原成二二二

心

き

し

ありて命

し

年齢

つ

美 葵上 波はお國は人のち美のまじ
世のまよのりい海まろくひと人ま
うとて

回 壽則辱多

美曰上東門院ノ由事とて去
くう一續世継云沖堂の由
むとあ上東門院後一榮後本産
の由母して由心まこ一後冷泉後三
榮とてんそそり居り

いしこれえれそ世活一うのり
さぬの由さひさいふ家世うの余
あすりるうして申く人あとう
あひあうたりう一れい

美 性生然いそくとく 妙十九調之秘

申すいあそこれう別のさか人
あういあうあうあうあうあう

これ中おのいあう行よ

夕雲此あれらふは津雲あつ心さ
みけいこまゆゆやうと
事こそあれん

美 源乃心こころあつちと
美曰く源海り海さハ秘を定
事されハ無餘候

四のおこは

美 源乃ハ源初
秘 源の初日ハ新り候と

日了てす

毎日と

美 毎日湯親事一見右丞相遺誠
私云四日ハ日ハとと新り候
申さげるとして此まきと心
ハ新り候とさげると
てあハ心ぬれと

美 此ハ元志とんと
玉うとれ

おちよきいものきけりやわらへり
れまきしれきりらめま

等 大文綱村清

秘 南賦ノある孝必ノ後之上心美

弁 関白

乃結るすくんと

いふうた作りしうゆりしと

おふさ後 美曰さしノ字清し

中ねのうきりあよ

等 雲のた鷹のうきりし振るま

うきりし事

たまらしきのきり活みりし

あのみりしものま

いまはけりし

等 一本のまはけりしきりし

けよくとし美曰はまを

私云世俗に在りしつぬやよいひ
くちのりて成りしを理て我字に
可也

幸らそめりて花のそりてさうりも
あす

何
村角れをりて我名しこより
とれぬもさうり何とち^美

おこ海さやうりよりてハ

^美
美曰月片のめいへそとて行り
不足りやうり世間ニモ申ス

ふてさうりむりいといけり
人乃車上

^美
月片の天然に性成の結あり
夜云カレるハ世間ニモ申ト

足へタリ
^秘
月片の天然に性成の結あり

花
すのこハ
洗濯ノ心
上ノ白濁
メトニキ
アリトニ
ノ喻アリ

テ面目リ失ヒケルト今ニ後悔ラズ
ハツモ一義ツ何事アリハトて内
ち片アアキツトしらもひて乃
つるや井原ノ事ツ大文へ源氏
の口入ノ事ハ後ニ始テ書出
サリケ物流ノ智毎交々
源ノ初ハ夕暮モおそれあり
時ハノ事ハこれハ口入モスキト也
とらりかくへくもナカリニ在リ

秘

わ申ヘク思ハシモ悔ラズ更ニ
キ事ニアラスト也

私云秘卒ハ失ヒ三光自筆下ハ
如牡丹ニテ減
ら川の事よつげくさよめと
事約進ハハくさしとあり
ふハきん
秘
互ニシ名トスルヨアハツラ
乃名もあしよ何ハ

ハあ〜〜と

美

美曰内ち片リ嘲リ妬詞一切ケ
カレタル事モ清ルル多ありノアハ
け立えあ〜名モトリ返シス、キ、
やうモリ有うトシキ事ニカキリテ
す〜くれぬ物成とサシメの妬心
私河ニ漁又辞リリリ戻ニアリ
ラスめ畧〜

のく口あ〜きふ〜りれまよ

秘

ち〜内ち片リきみ〜ぬり妬心
か〜ノ事トハ〜る色サテハ〜
何事モ庭ヨリ信キ事ハ有カタ
キト〜 平〜朱〜

美

美曰一〜ひけ〜る名リ事カ
〜わ〜ハ〜ト〜キ〜
ハ〜有〜キヨカラヌ事トシ上ニ
大文ノ詞ニ立〜名れ〜
〜〜〜〜

何事よつけても末よまほしハあらけ
弟らめらりんまきくゆられ

^秘人のおらふく事とそりな獄

^美美曰ツテ秀方とりに満テ、雲方ノ
唇ヲ振モツカヌ方とてぬ人云まハ
孝ノ進退安キ事ノ流り末世ニテハ
物ノ作法とそりくそくひり

うつりぬまハ中く、安キ時代
ニテハケルヨトマアうくとり乃後
セ

いとおくまきまみ

^美美曰けいしあしハ憐愍よ抱ス

^日美曰上の親にほりれ一まなとよ
つげても末よまほしハあらけ
まらめしんハ湯世末法ノ海親
ノ西乳アリニ付名をまけり

何家ハウレキリ移スといふ

等
源詞

秘
ウレトハ内大臣乃知経言人改め
得タルトシ等

ふい

何
不意等

それありハきほひうもさいもあう一約
らん

秘
る出りありハ雄人の子とも云

等
さういせ

等
美曰日ノ初ハ源の山実子ノやうに
因工シカハ事ノ心ヲ保リモる子シ
ラテ女子ノすくあくて之シキニ
ニ許客有シテ能ク明メ行ハ儼
事ニテ内大臣の知経一人まで
有り一セリサト云々ハ名アリト
リありて
キクさほおのくさつひの

秘 西子ノまゝくあがり申し 美

うとくして

美 かへりきててく幸れ申しト思ふ

むひひもあつた

秘 せうへはりあつてむひひなりし

美 美曰親しりモそれ申し結のまじ

しよおが口くあつてやうあしあつ

美 執定のりりよのあつた

内約のうしれまはく人多くあつてはり
此所のゆはりし

秘 うれあハ内約あし 美

河 延喜式云内約月一百十人尚侍

二人典侍二人 掌侍四人

女嬬一百人

女官らしと

私云女官ニ二ノ心アリ言ク女官ト云ハ内
侍命婦藏人コトキ女ノ官リ云
是リハ三ヨリト云ヤ言ク女ノ字リカ
ス女房ノ官ノお名ニ云ヤ又ヨリ
リト云アリ是ハト腐女之今世
ニ未ノ物トテ汚辱ナト云アリカ
夫之け中と選ニ得選ト云ヤ臺下
ノ女官言ク湯交ノ女官言クアリは時ハ女
ノ字リニヨリトリ

二おうれまげやあり

何故老典侍

南代有老のまげ二人アリは人
く侍候をへきれ又競分ノ方
モ有り也

典侍任高侍例

尚侍從三位當麻真人浦虫

文正六位上
繼凡右京人

弘仁七年任典侍末等遷為尚侍

天安元年任尚侍

國史云浦虫為人貞和早標美譽

未嘗適於人遂不知伉儷之道

自掌宮人職能修禁内禮式河

尚侍從三位廣井女王

喜祥三年任權典侍天安元年任尚侍

尚侍從三位藤原朝臣灌

應和四年正月任尚侍元典侍
上

此の子よむつよつよ人あんなま

族好下十方、擢入(千人ノ十

キヤ次ノ嗣三子其子細リの之

礼家(一)人のお

秘 ぬ(一)人リ擢(一)キト

美 日(一)ハトテ世(一)おら(一)お

為人ハ(一)お(一)勤(一)人(一)モ(一)ハ(一)ナ

ケレハ族好(一)キ(一)世(一)ノ(一)モ(一)ナ

あひまう人ヲ撰まじ事ニ

家のいしきとてみぬ人

義 礼云家の之りてせきり人トシ況

に阿まじもけ義ニ絶し

又云礼の家よ長あし奉公ノ例も

ありしと

義云 礼云別よ後すり義あり秘

ノ義ニ絶し

因 家のいしきとてせきり人トシ

事

家ハ多してき家よりわ家ハ

あしとせよとてまつ人の方と

とみぬ人の内約りたりハ何

しとてき家ハくしてわ

つ人のせよとせよいまん人とも

右より定りありと

志しきふしきと

秘

典侍二人ハ年月れ方阿まじと只

て然人しと撰りてきとの定

あゝ 松云を人あゝてりし
ハ族姓よりうらぬ念
美曰文漢と平トせしゆきな
らハ面の典侍ノ情任トす
足ハケレトモ

美
あゝよへりし

美曰衣冠としてし文翰ノ撰入申
仁神ありとありハトシ
一本ありたよへりし 曰事し

一本ありたよへりし 是も曰事し

松云の上美

おほこ乃おやしきまふ

美曰さやうなる人あゝハせり人
と撰ハルハ申ノ穀心三ノ肉ハ
人リト思念ハれるゆ

みけるまき事し

秘
美
お作ハをナレシ

似合タレ事ナレハをノ作ナレ有辞

申すは是也

私に後同去同

ちかつくハさまかへいすらよて

筆

私に也メ又つてよ出たり事ハ可
就電リモ妙キノ心カニ有これ
と是ハ内約而ノ政リ志くめん
の心アレハ人の世とちなとせらん

ハ中ここナキ事ハ女清更衣ニユリ
從リモカリ(キ事ナシこれとてけ
事リ婿とて(云ハ此ストと因
^た又つてハいさくくりちりて
かゝるうさげさい事もあれこれ
つまにいとくはよつていさくを
さぬの定よてりいさくハ
く(いさく)をされと從れ又人
ういさく(いさく)と云

舟

うらたしへいせほもまつり
はちりあふ家もも何り高約るは
あつ事へんくす政と
こりん事とのま

なつら又さ

舟

一人の子もつら
きつら身れあつさぬ

事約めしとあひさるり約

美

美曰

私云は能諸妙よほせ人多

業とらに女卿をた美せん

しう平定なれりやうに職掌あり
しうハ政の是也よりりて今よあ
るしうらうくさい事なれあはく
らうらト思つ事と又とく
思案とほよなりとくさくおん
くくこの身れそやうく
え何ゆも若無ハあれや
らとてしんと源のちるなり
るしうみ義丸

よひのちとくし

秘

内ちたの西子ニテ一就し源ノ
ひめてハ御らひとくし

美曰
此等事ハ伝玉うく事とともあり
アとくし

松云秘抄に卷之三之五ノ秘を以て
ある事にして感一日の事ニあはら
ばしめり也

^美美曰政リスハキ人ノ餘リ微弱ニテ
モヤト思テ年齢ノ為ニ次ガ
くの事ト実又リ申カラスニ
驚キタルトせり也
私云愚業ノありに任するふに
てけ美一然れ

かれはつひあは

日府の事よつひ人ト

かむゆりあつひ人ト
あつひ人ト

^美美
はこりゆひ乃事

清なるやふとらけ

^秘大文の清なるやふとらけ

有浄のし事し

等 右文の此煩ニ事一ヨビニ有浄アリ
こと

有りしとひんなり

ありしとありしと似合ぬ事と事
と有りしと事

くく物せよ、張流ありしハ

秘 右文ノ清高ノありし事

等 右文ノ此高氣減氣ニありしハ
疾

おしひとことせよ

等 右文の此煩ニ事一ヨビニ有浄アリ

きりつて又物せよ、張流一との行

これまで源ノ調より有りし事

日府ノ行しきつて事

文いふく約なり事あり

等 秘 右文の此煩ニ事一ヨビニ有浄アリ

ありしとありしと

秘 日 右文の此煩ニ事一ヨビニ有浄アリ

く家あめりら

^秘 近江若りしめゆし

^筆 近江若トトノ事

いふるゆし

^筆 月ち片リゆし 裁メゆく申ヨシ

多りれ事ニヤト 疑ゆ

かこらこしこし

これら一はうげありて

や

^筆 秘伝大文ノ初ノ義あま

只源の構政ノ心保

及て実又と

ゆらしし南府の

くうりめら

此ふとしてわたりてヤトし
大文の詞之原の傍懸わつたる
つゝも年未同のてるや公実
又の方とさして源氏の所
方一なりりりりや成めると南
の丸合よち文のくろくは源氏
と又と彩り遠くると之をた
うげぬりりかぬ
又うげぬりりてかぬ

うげぬりりてア能は但二月
平の上事
武宗長義のち信うれりり
りりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりり

さるやうなる

^秘源の詞集

くしきいさぬはれおしと

内府八陣ておし合せおしとし
くしきいさぬはれおしと
あふふゆめは

夕息上ノ事平人わしこしうや
れ事ハあれと何ふふハ源の

おしと

中ね朝片もさる

夕音よまへは事とさるをぬこ

人よもさるさせまき

たまへも口さるをぬこ

うられおしとぬこ

内府七源の三葉文(おしと)

とやまぬこ

さるやうなる

三桑文の神と四府れさるやうに
ある

いけらーいけらーいけらーいけらー

源の歴々れ神とさしこころさ

八歳守れさ海

こせんととと

源の赤駒

おまーひさしけらら子

源の赤駒

中ねハハととと

夕雲

由子さもれ君さる

四府の子息さる

まうり地さささる

井 福屋

四府の家れの後上人ともさる

はらさ物おんささる

四府の伴つさる

三つ〜も〜く〜と〜
内府の事考活り〜と〜く〜
成て物〜く〜く〜く〜く〜
^秘たまのれあ〜い〜
^秘たまヨリ源の〜く〜ひ〜活り〜せ
う〜く〜く〜
六条のお〜れ〜く〜ひ〜
^秘たまノ又ノ初〜
人め〜い〜く〜

外〜又〜源人〜擾〜人〜
〜
か〜
たま〜り〜又の〜
〜
多〜人〜
源の對面〜
何〜
何〜

秘 四六尺の巻

おれひめ若の西よし

雲井房れよりよしとちり

中約のうもく人あや

夕音の切よしとよむ源の口入あ

らむよしとちりよしと又ち文の

合のねえよしとよしとよし

まもく西世のちりすくあきよしと

ち文のよしとれおきよしとちりよし

これとくせらふのよしとよしおよしと

みくよしぬさあよし

大文のよしと存生れらふの雲の房

と夕音よしとちりよしと源の

切よしと源のよしとよしと

よしとよしとちりよしと

つまみくよしとちりよしとねえの

うして

秘

夕音よしとちりよしとねえの

ハきほ残しあり
さほていあそあつ八人の所といふ

身人乃由言し
私源らとの推量も多ういふ井

為と隔てると既行も逐うた
大文源らとれし一交も口合あり

ハそれとつあそよと定てゆ
終りんとそあつ終りんとれ

心よてちまといさあをせとの終
いさひあつんとといふれ

いさひあつんと
秘めけ声ノサス

又うといふ所とあ
秘めけ声ノサス

甲さこあつひさそ
の所をくせし

あつひいさひあつと
抑うさりとてハ夕方(射)て

ハ存方ある程よいつ口見とさるや
とよし是やとてあつたま
人といふ四府の性成りなり
弁
なひさやせまう 又やせうハ
あつたはれんあやうし
いときしうぬ
弟子地し
君らいつおまへ
子はあつたうらう

多きくらそくはう

秘 人し

四 四府の神し

勢れさまの神し

うさもあひして

秘 あまはひさうし

いしうし

秘 何 高徳し

高徳をいへる高徳をいへる

タニ 懐ニ 今ノ 世ノ 光花ア 凡トシ 却入
おりら

く かりら 之 面りら 之

あゆまひ

弁 歩神 之

秘 歩サ 之

えびそ あり 此 せう ー あり さい さい せう 此 下
くまの

花 直衣 布袴 之 接 下 くる 子 ハ 此

して 白く くる 子 此 様 之

秘 直衣 布衣 ト イ 一 凡 出 立 之

いし ちう ー ちう ひん 之

ト くる 子 の ちう 之

裾 の ちう 之

六 条 反 ハ さい せう せう の さい 此 あり 之
ー さい せう さい あり 之

源氏 之

花 是ハ 布 袴 と ハ さい さい さい あり 之
の さい ハ 子 の さい さい 下 之

ハみえゆりもそち若すくハされよ
志多しゆぬ

ひり
川はくろひ

^昇 四右衛門のえんしんくも源氏
のりつろひまよハあさ
ひてもんくもしん又えんのみ
さりまら斗しうあめ音候
ちしも無双しよや源氏四府

其ノ此行
正村紙アリ

小見合の心く又まらりあはして
向とさりて四府れりよしてこ
解れ

秘

け候あまありうきく一てあめ
結ハさりたりと云ニテリ源氏の密候
こ見ん義アリ 又義ハ支コリもさ
月結くし云ニテ源の事し其末ハ
四右衛門きりく志多しあハ内大
快ハ結さりまよしんくニ義たこ

用

後曰此友の内ハ子連川に逢て新原川
の船に昌れみく日ハまふりつと云ふや

三友自筆

因

うゝまゝこゝふ 是因存ノ神也云々
私之しうまゝより始り源ノ方へ
付しりかくまゝこゝふと云ヨリ因存
乃事ト見んル等ニ始れ

友之細言ままをま

并 因之片の才こゝろ也 秘

私之塔三条文の洋服ハあつと
とのつゝわさしりあれ

し日れ候ハこゝろに候しりあ
るゝりしてあゝいさゝかりし何
まゝいばらひりるし

十よ人

因 十人あがりし

さい
秘い
いふ人よすくれ治る

秘い
かくのまことまこれ幸人んた云い

さ
秘い
さうしてハあうりめくうりけり

秘い
日ちたのほくうりまよ

ほ
秘い
うりまよ

秘い
考事

勘當

秘い
考事

秘い
かんたうハ

秘い
源ノ初

秘い
源氏雲井の房れ事ととせて

秘い
乃ま初

秘い
源ヲ考し雲井房よの事と考の

秘い
めうま

秘い
源の心まむうりめと考

秘い
てのまよと考の事と考ひて

秘い
せ

秘い
私云花弁ノ義ニ就ル

これ幸やと其をば

因 日府心

秘

雲のれ居乃よりやとさるるを

の こそりくさるるを

日府心疾くしんきりてあはれ

このあひて又や雲井居の

るはのれしんきりて思懼

しんきり疾くしんきりて思懼

むしりあり

秘

源ノ綱

大小乃事

秘

事くれ

くはなしんきりて

は翼

武

臣ハ君ハ羽翼ハ史記

未乃世しりて

源ノ内府とのらむしんきりて

あゝぬ事その始り
らくれとくく

秋好申まを源の入口をせまて
弘徽女の口唇女罷せりさこれ
よしく又源ハ雲の房ハ事うと成
細

あゝくさりあひていけい

^秘万機ヲこぼつるいよはらさし
けくさげさハ事あらぬことく

しんき祥

私云くさりありてくさげさといハ
園白うしれ人う建ハ家く
ありさかきし事ハ成るん
こそれといさものけり按と者略
きくもほろくハ事つ建のさ
まのの始り初
それゆゑいひしひさき
くさりあるけり按と事

いぢり(きん)

秘 日ち辰初

おとあまき

何 剛 私 面別れ

い くーふ

秘 ありは後息あふまて

い りいへりす

秘 須る巻あつてあぬとあ

あも何り早下の綱

思はくまふ

秘 源の由恩とまうし

圓向うしゆりあふ

けふとのけうら

ゆふうハ懈息のむい

も川きめあ活て

あめと源の、あふ

あはあてのあ

不れあうーとあひみかたり

秘

あうーれまーとひびあう

あうーいーあうけし

秘

内ち居し

そ乃うーりーいふあまきしと

秘

内ち居し詞

あふ乃ばかきあううれーあましと

らー

秘

ししーりーりーまーと

同

西東の抱きりーの事し

らうーくーいーぬ

秘

近に若あひぬらう事

くーれーくみらうー

同

とに若うしぬし

人さかたよふて千すくよつて寝ていあ
りれよふと泣くころ

近は若うしの神とみあふた
のち事しれすく成るは

私は飛いさうをぬふ

葉とさふさういよまのころ
なまのころよつてはぬい
ありんこのころ恥辱よてもあは
くさかしくころ

あふてみんりもあつた
なり事しよとてこれむ
つらひいよとていぬおろひ
ふらりつらよのあれあれ朝の
くよつてさぬいゆ
よよふてころ

あはれよとてぬらぬ

秘

玉うろくれ事とちるおまじ
私云是ハ心府の子さるれり共
まじくおまじりありはたおしてま
じ

まじあんきよまじくし

是ハ心府のれ子さるれり共
てまじくしりさるれり共
心府の親し

いさしハ乃のぬおれおこら

華本巻よまじくし
ハ何れつゝあてありと
くまじいり事あひてハ
是ハ乃の源の親

文つゝまじくし
まじくし
まじくし
まじくし
秘
まじくし

心よはくぬほましく此の感も
くみきれていらいりくまきほり
まうしてちまうしん

あつしいほりゆれぬほいさひ
浅

源の事し此あつしぬの岩後
かひの感ほ

いこいあしほりあつしん
あつしいほりまきまのほり
あつし

三不くと
秘 如北ワケタリ

あましうといふん公
を面白しちま尼よておりまき

申交れ所事とハ
秘 雲井了居事し

一物し
用念たりのしりくし

おのしり
人しほくおのしり

源の心申代察りてくし

これおしこい

秘

日ちたれつあきあつた
日ちたれすらんしんもつた
おきりーし

むとあきあきあきあきあきあき

日ちたれはあきあきあきあきあき
ゆきんとあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあき

こゝもあきあき

秘

日ちたれ

あきあきあきあきあきあきあき

おとさういあん

わさしきまき

さういこれあや

秘 源ノ初ハ裏ニ此事

此章一ノ事

源ト内ニ此ト

いこいこ一日

玉うろつきまきの事

又いれろいゆり何多

秘 け事といまの雲井尾の事

ひうきしきり人

秘 花多流りて実白も源の地り

終一よ又同事

ぬき事

おとさういあん

因 秘

内府乃公

おろしとにけしとせしと
治之

かきりしげりりきりしと

皆内府の旨しおろしと

よろりあつと

心きりしとれら

源乃おろしとあかき家通しな

さしあつと内府の度量し

弁

玉鬘り源氏とにハとれ治り

と内府乃治り

厚人しれよと

秘

紫上りしとよしと治りハ人の

いととあつと又さりとて御公

ふハと治りしとあつと

ゆととあつとととわりの

おひてしとあつと

うげとあつととと

ふは業上りしよとくありてむらさ
りてありけりとも又水子うらや
ふてとれどくは雲通しありて
まは心ちたの女といしあは
まうらとくしあしよ心ちたを
拵をいおのこし成さひして
ハは子といふまはとくは雲通
ありけりともとくは雲通
くらありきれと

因
ふやうに人まきぬ事ハ内府の公
不足よとく

これ成事ともとくは雲通ハ
秘
源の心ちたれりともとくは雲通
さしとれも力あはさしとくは
秘
さしとれも力あはさしとくは
秘
さしとれも力あはさしとくは
秘
さしとれも力あはさしとくは

秘

心約のつこしよまのり流く女洲の
ゆこめわくしよ

私女洲の弘徽女 日吉世

さもくもくろり流しとて我

日吉世の兎角とて我とてい

ももくろり流しとて我の約

とれ流しとて我の約

しとて我

くれまのつこしよまのり流く

是ハ三乗文とて流し日吉世
の流しとて

十六日ひんれくしよ

彼岸 齋法成道経曰一切衆生依

持二八月齊十方世界一切衆生離

苦得樂靈瑞而已乃至中春中秋

晝夜各五十冠し時正ト云也仍吉

日多ク

彼岸者二月八月八王奉會修到

彼岸舟食法上

ありーくおりのませハ

秘

たまはゆめのうらーん

いそれらゆき

ゆ震ふれまよひくはふいふ

ぬ

まのりゆきも

秘

源まろくはゆ方へゆりゆき

おのりあー

ゆはゆへまろくはゆりゆき

あーい

秘

ゆはゆへまろくはゆりゆき

ゆはゆへまろくはゆりゆき

あーれまろくはゆき

秘

玉ろくはゆへまろくはゆりゆき

ゆはゆへまろくはゆりゆき

みささくんとしきと物いしん
うれーりげち

源の初んーりるかど活の突又
ハ初んーりよさくんとしき
屋りあーり初ーりしし

秘

けーりノ字妙しく念活のりよ
あーひろきまし今突又よきれ
せりハ一服とーりしし

井

むろーれと源氏と何りし思

ひ初あーり又よきしんーりれ
ーくまよま物ーりよとん
私あーりよと何方て初秘義りー

かくてのらハ中初の若も

夕音よむろーれと源のいし
く初まよ

あわーれしーりや

い玉うろくはまきと夕霧は原の
水子成屋にいろひ出まひこ又日
ち氏の西女のうろくうろくはま
ゆれし不義よこま

むありきりしころあんとは

野分巻よあつと源氏若むろ
とこまきろよ夕霧ういまみ
ろれ外よろろ一一年れおむ
な成まゆりてはくはる理よ

てあつとこひありはよ

野分日あや一とよよ

せは

源氏玉うろくはまき
夕霧れ中ねがのふみと
し今事のうろくはまき
あつとあ

うれつまはれま人のあつと
うれつあつと

秘

や井馬しや井馬りい

さぬらり物とし

花

や井馬れ事しあ紙もあ

出るぬもや井の馬れ事し

私三年ニハれもあはし何り花

鳥ニハれもあはし何り花

あはし何り花

ぬり

そりりさりあはし

秘

やろりい好みの心よ

ましし我ろりい魚腹ニ

の母よ心

れとあはし

秘

夕雲れ実法るり

や井馬れ紙ろりいけり

一紙ろりいハ紙らき

とろりいハ夕雲れ実法るり

ろりい夕雲れ実法るり

三葉此より

秘 玉よりくへ又あり是

祖母されハ大文よりくへいふ

いとくしんせ

秘 文乃河之いしーいしーいしー

身は是まきーゆきーいしー

はふーいしーもたうれまー

秘 命ありんるあーいしー

ありまよるまきーいしーいしーいしー

秘

わりの孫ありりー

清きーまきよまきーいしー

秘 くハせしもゆあーまきんまきーいしー

命ーいしー

秘 大まれより孫といふ事といふ事い

まきーいしーいしーいしーいしーいしー

かたはくしり

家
かゝるにひりてゆきハ玉くらけ
けり身もなれぬけこ成り

秘
三條文ハ玉くらけハ祖母源氏
ハ北方養父上ハ文乃ハ女ハ玉くらけ
乃ハ源氏源氏ノハ女ハ上ハ養父上ハ
ハ女ハ子ハ祖母ハ親母ハ女ハ
ハ上ハ女ハ又ハ女ハ上ハ女ハ

秘
玉くらけハ上ハ女ハ上ハ女ハ上ハ女ハ

秘
玉くらけハ上ハ女ハ上ハ女ハ上ハ女ハ
上ハ女ハ上ハ女ハ上ハ女ハ上ハ女ハ
上ハ女ハ上ハ女ハ上ハ女ハ上ハ女ハ
上ハ女ハ上ハ女ハ上ハ女ハ上ハ女ハ
上ハ女ハ上ハ女ハ上ハ女ハ上ハ女ハ

こどもくらけハ上ハ女ハ上ハ女ハ上ハ女ハ

源

いふいふのゆめさうさ

けふとあらんて源の流初

昔ハハカシクもれまくれらとよ

るりー

いーやこれゆのよ

いーやハハハハハハハハハハ

いーやハハハハハハハハハハ

いーやハハハハハハハハハハ

秘

いーやハハハハハハハハハハ

年よりてゆの振たヌルたヤウたビ

ニハヒス

くもむくーきよまのりしる

秘

いーやハハハハハハハハハハ

一サシウイナ字のあふよ

いーやハハハハハハハハハハ

秘

いーやハハハハハハハハハハ

いーやハハハハハハハハハハ

弄
世の人
のま
い
う
た
ま
を
う
た
ま
を
う
た
ま
を

あゝいふし

そくありしはなれんと八景園と
ふし春日うき衣きり、あれし
つゆしあまのいふれ敷とこれ
とそれハれ向うのまのまのぬ
ありし一右ハ情一とる事はま
私ハ雲山抄しとあまのあれ源
あれしとる色ぬりハとるしとほハ
せり

中交り

林好し

白き山雲衣しとぬ

裳唐衣し

因
しとぬハ唐より後なる物し
け美なる

いふしあまの

髪上の具足といふや
しれとる物

何

蓬州方自唐土竹友はとて又唐
して合く家草しむし 見梅枝

奏

日 秘

河海と流りりつ連してのち七
唐して合くうく又蓬州ハ唐地よて
命りかともくくしよと

あさくはれんく

是ハの石上花らりり 里ツ下のさく

あさくはれんく

んはれんく

さくはれんく

んはれんく

是ハ二条院の東院にけなれ

花ハくやうよ 村の山さくしひら

はさくはれんく

んはれんく

未摘者

んはれんく

何 如飛く

あり孔より出せし

弟子に授けしこといふに

朝事ししてつけぬ

あはれよひのふとるり一

服者あつても用るるの例一物

着脱ハ服者あつて神し者

勿論しこといふハ込服也

同 着よひハ服者あつても用るるあ

まともなうれ洗美の付ハ似あ

ぬ

あらしうらや河とる

何 秘 昔執しつる物

衣 粟又 ちれおの袴之合袴

乃ちまゝ、袴こつたの物

ありは又の袴と右ハ情

中田記お裁し或洗下地

と紫よぼせてしと白し

うらまゝと又云ふなり又ハ紫に
ま

秘

あはせのうらぬハあまのあはせ

秘

こまのいのちをいへりかきよめ

ふたひさし

再

おらなり又の務あし 一部合点 一巻

あはせの務あしあはせ云れ

川初ハ昔さてはり

又とまつむのぬかきひてみ

まらりあし

ひらきあのまらりあしあしあし

のれこらあし

何

は草のまらこまらあし

ぬまらあしあしあしあし

秘

まらあしあしあし

回

トとらあしは草のまらあし

そあらあしあしあしあし

再

草れあしあしあしあし

里父のほく或況に下地りノ所は京
上傑て上成ゆしてりあふり是
河海一帯 秘弁に京の志しりり
ゆりハ高栗父のほくは 秘弁
叢地の小樹ノ木ト云々云々

三つせりり

未摘りりれ父の初

これいあやーきしと

けさぬのみくと早トー

初

おのりりり

秘 おしあー

是きまてハ海

おのりりハ物

乃初

あゆんー

お新しきらのあ

并

末摘のうら衣とつひまよひ

末摘

くぬぎあふこりむすらとひり

ころ男うらうみらまきりれう衣

まうたりしにあまきとてたひと

因

身れおうぬあまきよあれぬと

九

跡をうりしとてんとうりくし音

あふこ

まごみ

秘

ちくこめりし

えりあき

何

まごきハちびちくこらすて

くちりあきとハえりいれてま

ころと又字つよるあき

秘

無名ハうらうらうらうらうけ

まごり入るあき

九

くあきとてとちりけうら

くいつまてふりぬあき

しきりしハ文字つくりし柳屋あり
少くハ美の物の柳は似るをく
ハ西のり

たし

源し

これよりしつん程より向きして今ハ
らうらうして

秘

約長うもき一対ハあつくは
代しハさやうれ人さうらう

自身若方一してらみ中一は
うらうら

弁

つらうらうら 約長うらうら
うらうらうら

これしし

源のうらうらとせしし

あなしく人のさみうらうら
源らうらうら

如原

うゝ衣ううゝ衣うかゝゝ一う何と

ううとうくうそううう衣うなうり

韓衣 伊保お河真名平

ううきうひうっう衣うようとうとうんううう衣

ううとうくうしうううみうらうるうは

衣う日うとう夕うらうれうようらうりう時うに

返うくうそう人うハうこうひうしうさ

しう葉う末う摘う花う奏うれ

うう衣う若うううんうのうつうううれう

返ういうくうそうううらうつうめう

玉う髣う方う奏う

ううてうれういうううみうらうるう唐う衣

ううーうやうりうこうんう袖うとうぬうて

けう奏う

我う力うううううみうらうるう衣

若ううう衣うようらうれうとうさうんう

是うまうてう唐う衣うとういうらうすうとう三う交

うしゆりあふよし衣ふくし衣く
しハミヨシヨシ流るる朝唄の
奇し

秘

玉ろくれせりハ別よるハ一は
奇ハ源のくさくろく唐衣を子
奇とまきくもく流るる
礼云末橋のふれさ向もゆ一と
しきりしとむむろくくの若らせり
ハ別よるまきくもく

いとまきやふかの人若

源の初末橋のゆきしむし衣
うれはくしきりし実し源
のれまき

若いとふかひやふ

秘

若れむろく

あれいし

むろくし源

ろくしむろく

秘 何

唎唎し

唎唎し 作跡物流る人々

らつる物よあしうりけりし

りりししりしりしり

りあし

秘 何

かゝるしりしりしり

りりしりしりしり

秘 何

羊子流し

るしりしりしりしり

れ流るは流るる

秘 何

るし

羊子流しりしりしり

又流るたりしりしり

私りぬりしりしりしり

の網り

しりしりしりしり

秘
く射面あり交よめん

めすうふまき路一

むろくれす

あふらきりい又とんて

定まは地ほよる銭そくころん

きんまきし西んま

源の秘んうろり銭田ち辰乃

こまん

やうりりておがき

秘
源の秘ん入るまきん実子んも

あ一又室家よてしあふん

ありまにうへんん入めれ

とし

九
まむとりれやうにうてあ何

うやうある極一終りせ

私むとりのまきん

式
とふり銭田ち辰のまきん

昇花よ私んうへんまきり終

とつらぬはなをあらはれしとよやト
りあむなき

カ乃時よそらよしれなきはな

秘 此村西あり時也

玉うすれは流着中(四七)の

入流く

まののありつとらひりひんせして

秘 名ありれ時の灯ハえかのうなる人

と流にれハ実子成け流あり

てんのなとてしゆとらひひんせして

ぬ

ううううう

四七にれ玉うすれは流着中

こもひんせとゆかり

何 ぞやうなるんを

ね ちかちかしたくは不念とさきりん

弁 うれやうなるんたうー

弁 ふんちかたん

ひきひきひまか

ね 裳のうーといふ

えんひひかぬ

因 四右衛門の神

夕白上のうす又むらうらうらよて

あふー

あふーのうーいひはあーい海の

事ハ

弁 源氏ノ綱

ね は娘若のうーにさうり終りすれ

いふれとさうさあー終りひん

いふーい海のうーいさゆぬ

いふ

因 夕白上れ事ハ 祝儀の束るれ

はりたふれりいひぬと

私をうゝの振事と人よあゝい

ぬまゝ

心をぬれりてはる紙よの氏

社はゆかり

秘 月太良れ実子ト云のハ

の振事なるをいふハ

と海のもの

回 海、源乃よれとく

月太良へ乃は

きよきよにまきしとせ

秘 月太良の詞源れ合はる

いなり

源乃いなりへき海のもの

の源乃よてはくけよ何と

へき振なりと云

秘

我身れども人にけくともあり
とをねさうりあひりしは
さうりしは源のともあり
てせりしともふあり

の 因

玉乃ゆよかりて源のしは
けき玉うくれしはみあは源
のしは

方よりしは使うてしは
方よおとせしはまゝくは行

とぬと源乃さうりは又しは
私はあまれは定へしは
はしはしはしはしはしは
とふれもあひしはしは
のせりしは

いとまじりたりきいぬらつてきと

并

口をたれむうくと今まであは

な成りありあしとこらあはし

秘

今までハあはしてよるうと内府

のうみあはと城よりらつて

源のうみ

いとあまらりにあんせ

うらふつこころなりと内府

れしてあま

いてあひぬ

口府着印一本あは

みこあらつて

秘
あはし

あけきり人もあはし

秘

兵りごまあはし

これあはし入らつて

因

何ともし一夜の神と心とをぬく
心ぬくくともく玉盤方といふ事
定めたりしれおろよやたふよまよ
そりうこくふろく

中將弁の君りりり

秘

中將ハ柏本

因

中將ハ柏本弁ハお梅の大臣

人志まにさうしと紙ううとくれ

くも

秘

兄才トモきんけー事ー紙

かくくもさう又実のりうも紙

うけくさうとこ事

弁ハうくさうらいてりりま紙

お梅ハむろくへ又うよりまも

なりりりし

さぬしりりおの

秘

六条院のさぬくれり紙ー紙

ろとりり

或

むとちれ居りて人の心成つて
かゝる終りとし

中 終れぬくひよ

同

林ぬの敷よけむうらとてい
てんとやあがすしうし恒世
人のいよさぬし

よとて終りんとやあがすしうしよ
くいありとてさ終りとし

世人れぬ沙流と固まりし

松花鳥云とて終りんとやあがす
らんうしよめくいよあぬう
とていこし終りともありては
云是ハ心ち良れむうらのき成
み終りてゆり終りハ心ち事成の
うらあがさ心ちとらりしとて
こし終りトあり終り三心あぬ
の字新
凡そりハ心ちつひし終り

秘 源内大臣一ノ源朝

元 是ハ源氏ハ内大臣ト云フコト
若ク事トシテ源朝也

白事ト云フヤト云ハガト人ト云

九 大ニ人ノウト云フコトハ能ク此を

ニ云ハレト云フコトハ能ク此を

ハ源ト云フコトハ能ク此を

人ノ云フコトハ能ク此を

源氏ト云フコトハ能ク此を

ハ源ト云フコトハ能ク此を

源氏ト云フコトハ能ク此を

源氏ト云フコトハ能ク此を

源氏ト云フコトハ能ク此を

源氏ト云フコトハ能ク此を

源氏ト云フコトハ能ク此を

源氏ト云フコトハ能ク此を

源氏ト云フコトハ能ク此を

源氏ト云フコトハ能ク此を

多く西のてなりしをせん

秘

日府のぬきし事し事

原の西元は随へるこ日府治へ

うきまては移んざれ

は版むろくのうと源へ附

日府のぬきし事し事

はとろり地

秘

衣裳若れ祿例ヨリモ事くくさる

たより

大いわれはるやこよ

およ大まの類よとつきて腰ひ

ひのうと日府の新ひあは

事し事ゆく急あれはまよとく

し事いれはるうしはなりし事

兵部つとのこのしを解り終るに

蒙ふらいろしうくてハ嫁集ものま

ーに事られハあられハ此

げよしまて延ハせとしハ

こしものとあらまーとしハ又

のの終るまらうのしハ

心りはまーにあらるハ

高侍のしハ

秘心りは右とゆくし

久さひ奏ーハ一交奏ーて

其のしハ源の終る

とゆくハ

別のしハ

其のしハ終る

一のしハ終る

とゆくハ

心りはまーに

心りはまーに

あまのうらみあり

日府の母にむらうれはらうと
すくれとハハまかたは原の鳥こ
とくしうハハて物にけりく
ころけん

秘

原乃く念はけりけハむらうれ大
くこの然人あり

ころけん

あまのうらみあり

秘

蜜巻よんていり

あまのうらみあり
ひけハハわら西子を人の物として
けりんころけん

女御

秘

日府ノ女弘徽殿
日ちんころけん

せらにこめゆくと

玉ノ事一息切に臣密あらし

ト移しよ

秘 多事一息切に臣密あらし

これさうれゆれと

秘 多事一息切に臣密あらし

中将少ゆめさうひまよ

秘 多事一息切に臣密あらし

私云中将ハ梅之少ゆめハお梅之け

人弁ノ少将之ゆめ少ゆめし斗まけ

ゆめ

後ハむとま

日府之 じとあハむとま

少さうゆめとてさうゆめ

秘 多事一息切に臣密あらし

かれもゆめとてさうゆめ

母方ハ早う子むらうれ事しを

お若ハ宿女りし

あふまゝのこゝ

を奥にゆゑにぬ神

奥にゲにやぬ神

奥モナリト

仲将

秘 柘木

まづづつ

二つよりしてなる

しつり

くゆりあ

私ををさるゝ

やうにせば

心通

地いひ

口まめたり

はるよはたり

いみ

あふぬれ

秘

をいふの詞

因

清くきりくろ物成とく

あれまはあかきまもやると物

いひしき神

かいしき

まうはくれ成くま

まげくよのそにま

ゆまつくよまかりく成しま

はまうりれ内約れくしなま

ひしき

りての女房

女御まきりぬ女房まよせぬ

わさきもてまははくまはさおれ

忠節よ女御の高約ま

あまあはれしきま

御まのはく

女御まきりてまをいふ若れ

らくま

これなりとて

中お奇意

なふれくは

秘

尚侍のあは中お解しと重

しりし物事ししつる

私云中將ノ如し

け次中お君えはしくおん

ありはるきハお出しつる

ししししし

弄
血口君の
とていれ
まきしり
ましを向
とのまま
とわきり
おん

ひだりし

何

北道

あてしは中よ

をいさめ

中將の君えはしくおん

近江君れ同相本れおし

るうに物事ししつる

やけししししし

え進んとかり

せうくれん

少くも細も道は若く似合てり

きり

まじりしひきあきしり 秘

ほろあし新也

は 册史記曰曠目視項王頭髮上指

册畫列衣

項羽本記 樊噲之怒也

けりあやまり

秘 せの若る出さみ事ハ

ヤニリメレ

少ぬいふ家こもてもみひみれ

ありきゆととろくふハもせな

身 け細ハ少ぬを流若とくさあ

松 け細ハさきけくくあき

ていひ行也

因 せの若とあくさじり細くこれ

しり細

私云は履する事あると云ふはかたがた
てもさくひなりさしハ道に若女
御の御りくちらまつふさぬも
それとらと女御もさうらぬが
さうと少ぬのいふ事

此を三月のてしうりさるる事

私云ゆのまこいさくいんもトア
り定定 秘抄三毛 いんもトア
り定定 秘抄三毛 いんもトア
り定定 秘抄三毛 いんもトア

日本紀才一云天照太神踏^テ庭^テ而

臨股若津雪以^ハ蹴^キ散 今案く

三といハかハくさくをく
之素戔嗚尊ノ雪行リ天照太神
より移一る付ます。たの
移ひくいんもトア
言くくいんもトア
けらくく天照太神
すまこれと乃神

又をいふまじし并少ねいぢい
まはをいふまじしとていふ事
たふくそり

秘

うさといふ一抄に見入るる
る海り面白くく地うらさ海
心一けりてしうあぐ雪乃浦ら
しくさられさぬるしあめ
とて

乎 天照大神一見方此中よふあり

此をよりさししう漢雪れく思
ひのさむろ所と何しめし

中得しあまれいししうしり給んや
何 せり素戔嗚るあしあま
ありしあま天照を汁天孫名

の事とていふは——いふに終へ
らるは——と

秘

兄貴れ事い事物るりとり金
がわいなるいふて乃は成掬
いさやういよとらきとら終りい
とていふ人とし

かろくとならぬ

出の君のいふこと

すけりる

何 無人望

多 出まのいふこと

秘 如御

花 いく

秘 いろりく

何 いろりく

はらうりりくぬきりかく

下葛女えきとれりいそてわ

つうい難役

地をいそれ流つと

女流の舞

ともし。いそげやふ

秘
ともし。いそげやふ

昇
たつといそげやふ

いそげやふ

昇
心ちた乃廻けいそげやふ

やまよつと

ともし。いそげやふ

いそげやふ

いそげやふ

いそげやふ

せり

いそげやふ

いそげやふ

いそげやふ

いそげやふ

いそげやふ

秘 好むにありんか 弁
因 たるくわしるる心又おひめを
まにあり

秘 長く

古とていひ

えいねひめくさば

秘 内ち長くくくさるる堪ぬあ

為也

とあやううおちけれよくせな

子

秘 弟子に

実しあるはくせと

さとおほのねいまりは

秘 内ち長く

私云はねいさう不羨と事い

とあやううたをけりかきし

ヨリ 内ち長く観しおのほの若の

け女侍ありしものけりて

こしをせ給てんとおぼこをば
りりま事し心太良の何とて高
融れぬありし哉おまたははの
治してまきよおまらふあてをこ
よこのこてはれりしととに若
一の治よ観しトスゆある

おろしおしこのおしとめ

玉ろしのおしこのおしとめ

おしこのおしこのおしとめ

おしこのおしこのおしとめ

宿位りり申し文りりし書け
し如し申し文りりし書け

唄——ての跡をえ

三——うきぬかすあつし

初汗あんと云え

云——く

弁 秘を抄くありよなりしひん

松 師流秘を念流に十ト云ふト云

草ひひ——く心として云え

因

ひひ——く鑑十ト云ふ流梅ト云

心

私ニ奏をえ

なりうさうしれんえあんと

ありうさうしれんのありうさく心河

んといふといふはこれに今と
てしやうとくを治家といひ
くはやく出に若とありしは
と心ち良の事しして乃は
也

何

長奇 右今よハ短奇ト云て
くさふハみれりやうとあり
万葉よハ是と長奇とす
一況云亦一字ノ奇ハハ七みり一
句

とて七といふとせりハ長奇
之短奇ハハ七り一とといひ
くさふハみれりやうとあり
家ハハ口傳も振ていふ
ハ有謂之後成ハ右来凡神抄
ハハはと流波ハハハ長奇ハ後
頼曰々云といふといひ
と傳々奇ハハハハハハハハ
傳短奇ハハハハハハハハハ

冷長奇短其の長なりは名
し崇徳院久安御百首も短
奇しむるごとく人皆長奇と評
し葉し長奇上の今れはま
つらりあれ事し短奇とい長
奇れ奥よ又女奇といひの長
奇も短奇といひ

私云は長奇短奇も中秘流あり
今河海はとりとりのことあり

少語に乃くすす所冷をあらり
うらむとともはくとの短奇

うらむとともはくとの短奇

奇みしれ中事し

人のあまき

秘 弟子代し

やうしうらむとともはくとの短奇

秘 近の若し詞

中文いひくあし相奇といひ

ましとく

ひまぐーちかこれ

あつてもまの執養の口をあれ

さくおの株果とまはなこい

つまふれちりて

一況志はくくのまふちりまふち

は我のまふちりまふちりまふち

まふちりまふちりまふちりまふち

まふちりまふちりまふちりまふち

まふちりまふちりまふちりまふち

まふちりまふちりまふちりまふち

まふちりまふちりまふちりまふち

まふちりまふちりまふちりまふち

まふちりまふちりまふちりまふち

まふちりまふちりまふちりまふち

まふちりまふちりまふちりまふち

まふちりまふちりまふちりまふち

とく秘

因 都りとていふは

世の人

身

内ちたのまゝおれり
ぬんちたまゝいりてかく
りいもつ世の人あつて
とく

秘

なりてくむりくく
まゝかゝりていふ人の
いふのちたまゝいり

てくあつていふ
ゆくいふ

私とせよ人ハ父の存のまゝあり
ちつちつとていふ人の
世のまゝとていふ人の
あつていふ人の
いふ





